

病院のお仕事発見

看護師「特定行為」編

看護師の活躍の幅を広げ 超高齢化社会に対応

医療を必要とする人が、超高齢社会により増加しています。人口減少も相まって、限られた医療従事者や医療提供体制の中で、質の高い医療を提供できるよう2015年に全国でスタートしたのが「看護師の特定行為研修制度」です。特定行為には、実践的な能力と、高度で専門的な知識と技能が求められます。そのため、特定行為を確実に実施できるよう研修を受講する必要があります。この研修を修了した看護師が活躍することで、患者さんによりタイムリーなケアを提供することができま

す。JA新潟厚生連では、約3年前から看護師の特定行為研修を開

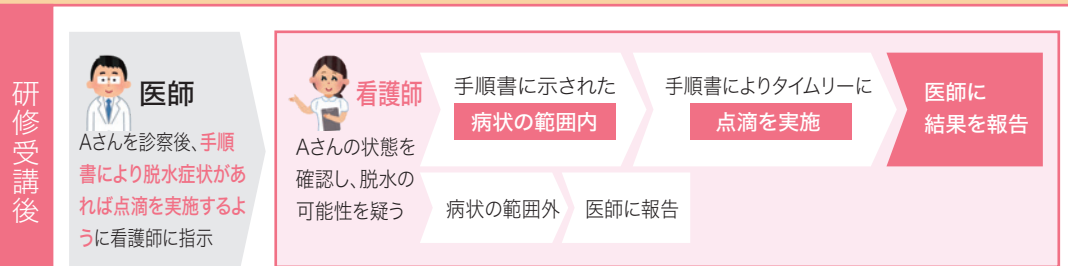
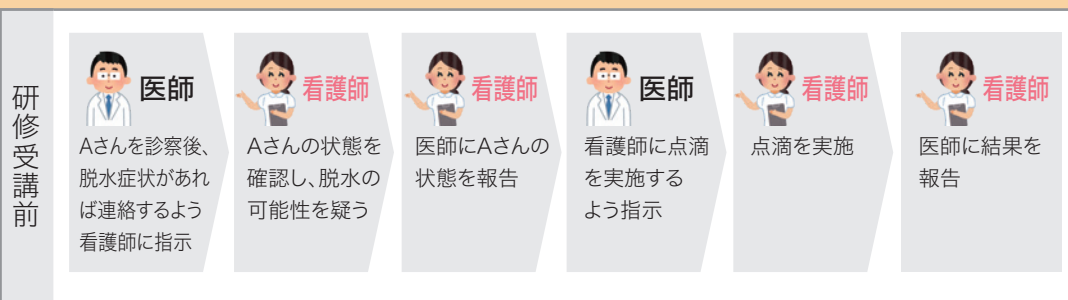
研修を受けた看護師により、病院や在宅医療で質の高いケアが可能になります。



看護師が特定行為を行うメリット

通常、看護師は医師の指示を受けた上で診療補助行為を行います。しかし研修を受けることで、特定の行為に関しては医師の指示を待つことなく、患者さんへの対応ができるようになります。患者さんに最も近い存在である看護師が患者さんの状態を見極めることも、よりタイムリーなケアにつながります。また、患者さんやご家族の立場に立ったわかりやすい説明ができ、「治療」と「生活」の両面から患者さんを支えます。

※特定行為のイメージ図



上越総合病院 看護師 佐藤 留美子

1989年長岡中央看護専門学校卒業(看護師免許取得)、上越総合病院配属。1997年、新潟県立看護短期大学助産学専攻課へ進学。翌年4月、助産師免許を取得し同病院へ復職、助産師業務を担当。2008年より現職の手術室看護師となる

医師と同じ視点で、それでいて「看護師だからできること」を追求したい。

「特定行為研修を受けようと思った理由を教えてください。」
理由は大きく2つあります。

助産師を経て長年手術室の看護師をしていましたが、医療行為の知識や技術について医師の視点が理解できれば、より患者さんの役に立てるのではと思っていたこと。それと看護師になって30年以上経っていたので、今の教育に触れたいという思いがありました。



「研修の内容や、受けて良かったことは？」

自分の余暇を活用してオンラインでの講義を受けます。定期的に行われる演習では、ロールプレイ・グループワーク・ディスカッションを研修指導者のも

とで行います。実習では、患者さんへの実際のアプローチ方法を学びます。

通常業務との両立は楽ではなかったですが、上司や職場の皆さんの協力があったり、遂げることができました。研修を受けて印象的だったことは、手術室の勤務では知り得なかった地域連携のしくみを深く理解できたこと。入院し治療を受け、家庭に帰るまでに様々な人が関わっていることが分かり、考えさせられることも多かったです。

研修修了後は、特定行為を実践する力を強化しています。実践を重ねるごとに「もっと患者さんのためになることをしたい」という気持ちが湧いてきますね。学びの機会を与えてくれる医師には心から感謝しています。

「今後の目標を教えてください。」
特定行為を実践していくこと



はもちろんです、研修で学んだことを活かして、手術前後の看護をより充実させたいです。理想は、医師と同じ視点で医療を提供することですがあくまで「看護師」として、やるべきことを見出し行動したいです。今は特定行為看護師を育成する側でもあるので、自分が持っているものを提供し、後輩たちに継承していきたいと思っています。

※撮影時のみマスクを外しています。



SDGsに関連する取り組みとしてロゴマークを表記しております。

特色

特定行為研修では、実践的な理解力、思考および判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技術の向上を図る必要があります。そこで当院では、病棟だけではなくHCU(高度治療室)、ER(救急室)、手術室など幅広く研修の場を提供できるようにしています。また、学習日(学習時間)を設けており、振り返りやリフレクション、受講者間の意見交換の場として活用できます。

研修の内容はすべてに共通して学ぶ「共通科目」250時間と「区分別科目」30時間に分かれています。講義、演習または、実習によって行われます。指導者が進捗状況を確認し目標が達成できるようにサポートしています



病院長を交えた活発なグループディスカッション



通常業務と並行しながら約1年間の研修に取り組みます



受講生は1期あたり2~4名。少人数制で一人ひとりを丁寧にフォロー



研修科目の一つ、臨床病態生理学の研修



職員を患者役にした研修。身体所見のチェックポイントなどを学びます

※撮影時のみマスクを外しています。

上越総合病院

看護師特定行為研修

(区分:循環動態に係る薬剤投与関連)

少子高齢化社会において、看護師の専門性やリーダーシップは、医療が提供される多くの場面で必要とされています。地域住民のニーズに応えることができ、医療の質向上に貢献できる看護師の育成を目指しています。



特定行為とは、

看護師が手順書により行うことができる特定行為には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされるものとして定められた38行為があります。

JA新潟厚生連看護師の特定行為研修制度とは

- JA新潟厚生連では上越総合病院、長岡中央総合病院、新潟医療センターで実施
- 経験年数5年以上の看護師が対象
- 各病院で1年にわたる研修を実施(eラーニング、グループワーク、実習など)

上越総合病院では区分別科目(循環動態に係る薬剤投与関連)で、以下の五つの行為について研修を行います。

- 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整
- 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整
- 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
- 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
- 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整



看護師特定行為研修 事務局

研修を全面サポートし、輝く看護師を育成します

看護部教育部門と教育研修センターが、受講生や特定看護師をサポートしています。主な役割は、研修スケジュールの調整、研修指導者との研修内容の打ち合わせ、研修の進行、評価などです。また、受講生のケアや特定行為実践の仕組みの整備にもあたっています。研修や実践が通常業務を行いつつながら実施されることから、時間を作りやすいよう職場長への協力依頼も行います。

看護師の仕事をしていると、「患者さんにもっとこうしてあげたい、でもすぐには出来てあげられない」と思うことが出てきます。特定行為研修はそうしたジレンマを抱える人にぜひ受けてほしい研修です。より患者さんの役に立ち、生き生きと活躍する看護師を育成していきます。

どんな職業も、人から言われてやるより、自己裁量権を与えられて取り組む方が良い仕事ができると思います。看護師の特定行為研修制度は、患者さんに適切なタイミングで医療を提供できることはもちろん、看護師自身の自己実現にもつながる制度です。「医師の指示のもとで動く」という基本は変わりませんが、特定行為研修を受けることで、看護師が自分なりのアプローチで患者さんに介入できます。それにより自分の可能性を最大限に発揮し、さらにスキルアップしたいというモチベーションも生まれます。この制度を活かして人材を育て、地域のための病院としてさらに前進してまいります。

看護師の自己実現、そして地域の皆さまのために。

リモートでインタビュー

上越総合病院
病院長
カゴシマ ミツル
篁島 充





上越総合病院 診療科部長 医師 塚田 俊一
**特定行為研修により
看護師との信頼関係が「見える化」**

指導者として講義・実習をしています。実際の患者さんを対象とする研修では、通常の看護師としての考察からもう一歩進み、どのようなケアが考えられるかレポートを提出してもらいます。受講生は研修によって自ら考える癖がつき、それを継続することで自分の力にすることができず。

研修を終えた修了生に通常業務で接すると、医師が伝えたい内容がその理由も含めてスムーズに伝わっていると実感します。修了後も知識を深めようとする意欲が見えるので感じますね。特定行為研修が生み出すのは、高いスキルを持つ看護師というだけでなく、医師との強い信頼関係。看護師との「あうんの呼吸」はそれまでもありましたが、研修によってそれが「見える化」されたと感じています。



上越総合病院 診療科部長 医師 大堀 高志

**研修を研修として終わらせない
継続的な実践の場づくりを**

特定行為研修と行為実践の指導を担当しています。指導内容は、患者さんの体液量を見極める際の身体所見のポイントや下腿浮腫等に関する知識です。できるだけ実践に基づき、受講生が興味を持つような教え方を心がけています。逆に受講生に教えることでこちらの知識も整理され、新しい気づきを得ることもあります。

せっかく得た知識や技能も、使わないと廃れてしまいます。学んだことを現場に還元するため、研修を修了した1・2期生には実際の入院患者さんへの介入を指導しています。輸液メニューの組み立てを考えることから始め、輸液の調整を行えるようになっていきます。手順書があるということ、最終判断は私が担うので医療は安全に進みます。ある程度任せれることで修了生にとってさらなるスキルアップや励みになると思っています。

インタビュー
私たちが看護師特定行為研修を支えています！

上越総合病院 薬剤師 廣瀬 龍樹

**看護師のこれまでの積み重ねを
裏付けできる制度**

特定行為研修の臨床薬理学の講義を担当しています。薬の効き方や処方の際の注意点、看護師に観察してほしいポイント、吸入薬の正しい扱い方などを伝えています。グループディスカッションでは発言しやすい雰囲気づくりを心がけました。受講生と私の年齢が近いこともあり、活発に意見や質問が飛び交い、有意義な研修だったと思います。

看護師は患者さんにとって一番身近な存在です。研修では、受講生の看護師としての積極性や患者さんへの強い思いを感じ、私も見習わなければと良い刺激をもらいました。制度としては数年前に新設された取り組みですが、看護師にとっては、これまで積み重ねてきた経験の裏付けとなるもの。肯定感や自信につながる制度だと思っています。

※撮影時のみマスクを外しています。

広報誌『支えに』4月号休刊のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い、取材等の制作実務に支障が生じております。取材先並びに関係者の皆様の健康と安全を最優先に考慮し、4月1日発行の広報誌『支えに』を休刊とさせていただきます。

今後の発行につきましては新型コロナウイルス感染拡大の状況により判断させていただきます。楽しみにして下さっていた読者の皆様には、ご迷惑をおかけしますが何卒ご理解いただけますようお願い申し上げます。

今後とも広報誌「支えに」をご愛読いただけますよう、お願い申し上げます。

令和4年3月1日
 JA新潟厚生連 総務部

治験NEWS

治験に薬剤師も関わってます

薬剤師が治験事務局をしています。治験に参加される患者さんの人権等を守り、実施・継続することに問題はないか、治験薬(くすりの候補)を薬学的に評価しています。

実施中	[長岡中央総合病院]	[糸魚川総合病院]
	● 潰瘍性大腸炎 ● 市中肺炎	● クローン病 ● 癒着防止剤 ● 血友病

※該当する方や詳細を知りたい方は、主治医にお申し出ください。治験に参加するには細かい条件があります。ご希望いただいても、参加いただけない場合がございます。